

## 中学生の「税についての作文」

大川 税務署長賞

### 未来への投資

大川市立大川東中学校

三年 池 末 鈴 蘭

消費税。それは私達にとって最も身近な税と言ってもいいだろう。私も税金といって真っ先に浮かぶのは消費税だ。日本で消費税が導入されたのは近年である。私達にとって消費税とはどんな存在なのだろうか。

消費税は物を買うときやサービスを受けるときその値段に上乘せされる。日本で消費税が導入されたとき、税率は三パーセントだった。それが今では八パーセントである。この数値自体は世界的に見ると高いものではない。だが、日本では消費税を十パーセントに上げるべきだと議論されてきた。なぜ増税が必要なのだろうか。

それには現在、日本を取り巻く公債金や社会保障の問題が関わっているのだろう。国税庁のサイトで見たのだが、日本は今やらなければならないことに対し税金が足りず公債金という借金をしているそうだ。その金額はまもなく約八百八十兆円にもものぼるといふ。更に社会保障の問題もある。社会保障のおかげで医療費が本来の三割で済んでいる。それはと

てもありがたいが、日本は高齢社会。通院する高齢者も多く医療費も膨大な額だろう。結局増税は先送りされたが、それは他の大きな問題を先送りにしたことと同じではないか。北欧は消費税率の高いことで有名だ。こうした国では介護サービスが充実している。中でも、デンマークは世界で一番幸せな国と言われ、教育費は大学まで無料、医療費や出産費用も無料。まさに「ゆりかごから墓場まで」を体現した国だと思う。

このように税は社会を形成するのになくはならないものだと分かる。

物の値段が上がるからと増税に反対する人がいる。その考え方も分かるが、将来の私達、将来の国のあり方を見つめたとき物の値段が上がるから増税は反対、消費税はないほうが良いという考え方ではなく、税金は未来の私達への投資だという考え方が必要になるのではないだろうか。それに税金は巡り巡って自分に返ってくる。安全な暮らし。病院へ行く。綺麗な道。どれも当たり前なことだが、税金がなければ当たり前ではない。更に、税金は自分だけでなく他の人も恩恵を受ける。これはとても素晴らしいことだと思う。納税は確かに義務だが、仕方なく納めるのではなく未来への投資だと考えるほうがずっと楽しいし、素敵ではないだろうか。

この先、日本の税金のあり方がどうなるか分からないが、私が大人になったら自分が当たり前享受しているものをこれからもあたり前にするために、自分たちの国の未来のためにきちんと税金を納めたい。そして、いつか日本も世界で一番幸せな国といわれるような国になることを願う。